

報告タイトル (* 日本語と英語両方ご記入ください)

「シャープパワー」の一般理論 : 米国禁止法を事例として
General Theory of “Sharp Power”: On US Act to Ban TikTok

氏名 (所属)

岡本至 (文京学院大学)
OKAMOTO Itaru (Bunkyo Gakuin University)

要旨 (800 字程度)

「シャープパワー」はナイのソフトパワーの対概念であり、国際相互依存下において専制国家が民主国家に行使する影響力工作を意味する。シャープパワーは、中露など専制国家との相互依存を解消できない民主主義世界にとっての危険を顕在化する概念として重要である。本報告はこの概念について、民主国家と専制国家の相互依存がもたらす一般的な問題として考察する。

本報告はシャープパワーの源泉を、政治体制の非対称性と国際相互依存に求める。コヘイン＝ナイの複合的相互依存モデルに政治体制の非対称性を導入することで、専制国家が民主国家の国内でパワーを行使するメカニズムを説明する。その上で、相互依存下で国境を超えるモノ、カネ、人、情報のそれぞれについて、シャープパワーの道具としての役割を考察する。

シャープパワーを減殺する方法として、専制国家に対する相互主義の原則の設定、相互依存の希薄化が考えられる。しかしこれらの方策は、民主国家内の自由や人権という原則との整合性、国際経済関係を制限するコストなどの問題を内包している。

本報告はシャープパワー対策の例として、米国の TikTok 禁止法を取り上げる。中国企業バイトダンスが運営する動画アプリ TikTok は、ユーザー個人情報取得のリスク、ユーザーに情報工作するリスクが問題とされ、2020 年の大統領令、2023 年モンタナ州法が TikTok を禁止したが、裁判所が両法令に差し止め命令を出している。しかし、2024 年に TikTok ユーザーがアプリで「大量動員」され、連邦議員に TikTok 禁止法反対を働きかけたことが、逆に TikTok の危険性を認識させ、同年 TikTok 禁止法が成立した。報告は、TikTok の危険の本質は、バイトダンスが中国当局の支配下にあることにあり、相互主義に反してバイトダンスによる禁止法に対する訴えを認めたことが問題解決を困難にしたことを議論する。